

# 教会の宝物

カトリック住吉教会 兵庫県神戸市東灘区住吉宮町2-18-23

沿革：1936年5月（昭和11年）パリミッション会により司祭館、聖堂竣工。献堂式

1945年8月（昭和20年）神戸大空襲により、聖堂焼失。

1956年10月（昭和31年）新聖堂献堂式。

1995年1月（平成7年）阪神淡路大震災により、聖堂、司祭館、幼稚園が甚大な被害を受ける。

2005年3月（平成17年）新「星の園幼稚園」落成式

2006年6月（平成18年）新聖堂落成・献堂式

## 十字架



1951年1月（昭和26年）住吉に着任したロジェ・ベロー神父により、砂漠の聖者と呼ばれたシャルル・ド・フォーコーゆかりの十字架が造られました。

製作地の神戸・三宮から住吉まで十字架を肩にかついでバイクにのって運んでこられたという有名なエピソードがあります。

新聖堂にも引き継がれ、60年余にわたって信徒たちを見守っています。

## 椿「玉之浦」

住吉教会の保護の聖人は日本二十六聖人の聖パウロ三木です。

日本二十六聖人列聖150年にあたる2012年12月2日、

溝部司教様をお迎えして行われた黙想会を機に、殉教地長崎の西坂に植えられたものと同じ椿「玉之浦」が玄関横に植えられました。

それから4カ月、冬の寒さにも耐えて住吉の地に根付いた椿が見事に花を咲かせました。

外側は純潔の白、中は殉教の血を象徴する紅い花です。

来年はもっと沢山の花が咲くことでしょう。

住吉のあたらしいピッカピカの宝物です。

（2013・4・7 記）

